

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名 木育拠点運営推進事業費

(森林・環境税分)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 ぎふ木遊館 企画運営係 電話番号：058-215-1515 (内14)

E-mail: c25111@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 43,376 千円 (前年度予算額：40,960 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	40,960	0	0	0	0	0	40,960	0	0
要求額	43,376	0	0	0	0	0	43,376	0	0
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・平成24年度に策定した「ぎふ木育ビジョン」に基づき、ぎふ木育を県民運動化していく拠点として令和2年7月に開館した「ぎふ木遊館」において、あらゆる世代の県民の方が木育を体験できるように木育普及事業を推進する。
- ・令和4年度は、ぎふ木育の普及と進化を進めるため、周辺施設や企業と連携した木育プログラムの実施、ぎふ木遊館への来館をキッカケとした森林総合教育センター(モリノス)への繋がりを育むプログラムの実施等、県民を都市部から森林に誘う仕組みづくりを継続して実施する。

(2) 事業内容

①館内の木育スタッフ運用〔33,860千円〕(R4~R6長期継続契約)

来館者にぎふ木育を伝える木育指導者、来館者の木育とのふれあいを支援するボランティアを配置し木育を普及する。

②木育企画事業の実施〔8,363千円〕

ギャラリー等を活用した県内の木工作家等の作品などの展示や来館者が楽しめる木育プログラムを実施するなど、来館者が岐阜県の誇る木と共生する文化を知る機会を提供する。

③企業を対象としたプログラム〔500千円〕

「企業の森」、「ワーク・ライフ・バランス推進エクセレント企業」など、森づくり、子育て等に積極的な企業と連携し、ぎふ木遊館を活用した社会人教育プログラムや保養プログラムを実施する。

④移動型ぎふ木遊館〔653千円〕

ぎふ木遊館職員が木製玩具をもって県内のぎふ木育ひろばを巡り、遊びを通じたぎふ木育の普及啓発を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

「ぎふ木育」の推進に寄与するものであることから、県負担とする。

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	1,002	木育プログラム等講師謝礼
費用弁償	262	木育プログラム等講師旅費
旅費	277	業務旅費、費用弁償
消耗品費	1,696	プログラム資材費等
燃料費	73	
印刷製本費	830	パンフレット等印刷費
役務費	116	郵送料等、保険料
保険料	110	
委託費	38,747	運営体制整備等
使用料	27	公用車高速道路使用料
備品費	226	大型木製玩具購入費
負担金	10	
合計	43,376	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第三期 岐阜県森林づくり基本計画 (3)人づくり及び仕組みづくりの推進

(2) 後年度の財政負担

ぎふ木遊館における木育の普及のための財政負担 (50,000 千円程度/年)が必要

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 常時、木育や岐阜県の多様な森林を体感できる場を提供し、体験等を通じて、森林を核とした行動・活動を始めようとする「人づくり」を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R8) <small>(R2-R8累計)</small>	達成率
① 入館者数		20,351	30,000	30,000	265,000	7.7%
②						%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	・取組内容と成果を記載してください。 ぎふ木遊館にぎふ木育の指導者やボランティアを配置し、来館者に木育や木と触れ合う体験を提供した。また、ギャラリーを用いた企画展を実施し、ぎふ木育の普及啓発を行った。
令和3年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	R2年度は、1日当たり100人の予約定員で208日開館したところ、20,351人の来館があった。95%以上の利用割合で、「ぎふ木育」の拠点施設として高いニーズがある。
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	アンケートで95%を超える利用者が満足・やや満足と回答し、利用者の満足度の高い運営を行うことができた。
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	ぎふ木育を広く普及推進するため、企業との連携やぎふ木遊館の外で行う移動型ぎふ木遊館を実施していく。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項</p> <p>ぎふ木育を県民運動化するためには、拠点整備の構想を検討する段階から県民に参画してもらうことにより、整備後の運営等に能動的に行動する・関わる人づくりを合わせて行っていく必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</p> <p>利用者アンケートや有識者等の意見を聞き、サービス向上に取り組む。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	